

資料 1

平成 31 年 3 月 28 日

東京都環境影響評価審議会
会長 柳 憲一郎 殿

東京都環境影響評価審議会
第一部会長 町 田 信 夫

「中防不燃・粗大ごみ処理施設整備事業」環境影響評価調査計画書について

このことについて、当部会において調査、審議した結果は別紙のとおりです。

「中防不燃・粗大ごみ処理施設整備事業」に係る環境影響
評価調査計画書について

第1 審議経過

本審議会では、平成31年1月22日に「中防不燃・粗大ごみ処理施設整備事業」に係る環境影響評価調査計画書（以下「調査計画書」という。）について諮問されて以降、部会における審議を行い、周知地域区長の意見等を勘案して、その内容について検討した。

その審議経過は付表のとおりである。

第2 審議結果

【大気汚染、騒音・振動共通】

計画地周辺の交通量は、周辺の開発による影響を受けると考えられることから、予測・評価に当たっては、将来交通量の算定を適切に実施し、その過程を環境影響評価書案において詳細に記載すること。

【景観】

計画地周辺では、海の森水上競技場及び海の森公園が整備中であることから、これらの整備状況を考慮し必要に応じて調査地点を追加するとともに、眺望の変化の程度について予測・評価すること。

第3 その他

環境影響評価の項目及び調査等の手法を選定するに当たっては、条例第47条第1項の規定に基づき、調査計画書に係る周知地域区長の意見並びに今後の事業計画の具体化を踏まえて検討すること。

なお、選定した環境影響評価の項目のほか、事業計画の具体化に伴い、新たに調査等が必要となる環境影響評価の項目が生じた場合には、環境影響評価書案において対応すること。

【審議経過】

区 分	年 月 日	審 議 事 項
審議会	平成31年 1 月 22 日	・ 調査計画書について諮問
部 会	平成31年 3 月 20 日	・ 環境影響評価の項目選定及び項目別審議 （大気汚染、悪臭、騒音・振動、土壌汚染、 景観、廃棄物、温室効果ガス） ・ 総括審議
審議会	平成31年 3 月 28 日	・ 答申

30 環 総 政 第 778 号

東京都環境影響評価審議会

東京都環境影響評価条例（昭和 55 年東京都条例第 96 号）第 50 条の規定に基づき、
下記事項について諮問する。

平成 31 年 3 月 28 日

東京都知事 小池 百合子

記

諮問第 493 号 「立川都市計画道路 3・3・30 号立川東大和線（立川市羽衣町二丁目～栄
町四丁目間）建設事業」環境影響評価書案

受 理 報 告

区 分	対 象 事 業 名 称	受 理 年 月 日
1 環境影響調査計画書	・西武鉄道新宿線（井荻駅～西武柳沢駅間） 連続立体交差事業	平成31年2月18日
2 環境影響評価書案	・立川都市計画道路3・3・30号立川東大 和線（立川市羽衣町二丁目～栄町四丁目間） 建設事業	平成31年2月15日
3 環境影響評価書	・多摩都市計画道路3・1・6号南多摩尾根 幹線（多摩市聖ヶ丘五丁目～南野三丁目間） 建設事業	平成31年2月6日
4 事後調査報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・渋谷駅街区開発事業（工事の施行中その2） ・東京都東尾久浄化センター建設事業（工事 の施行中その7） ・日の出町二ツ塚廃棄物広域処分場建設事業 （工事の施行中その11） ・赤坂一丁目地区第一種市街地再開発事業（工 事の完了後） ・一般国道16号横浜町田立体建設事業（工事 の施行中その12） ・豊洲新市場建設事業（工事の施行中その7） ・首都圏中央連絡道路（一般国道20号～埼玉 県境間）建設事業（工事の完了後その3） ・三鷹都市計画道路3・2・6号調布保谷線、 武蔵野都市計画道路3・3・6号調布保谷 線（三鷹市野崎～武蔵野市関前間）建設事 業（工事の施行中その8） ・小田急電鉄小田原線（代々木上原駅～梅ヶ 丘駅間）の連続立体交差及び複々線化事業 （工事の施行中その3） 	（別紙のとおり）
5 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> ・豊洲新市場建設事業 ・新海面処分場建設事業 ・府中都市計画道路3・2・2の2号東京八 王子線及び国立都市計画道路3・3・2号 東京八王子線（府中市西原町二丁目～国立 市谷保間）建設事業 ・多摩興産株式会社採掘区域拡張事業 	（別紙のとおり）

受 理 年 月 日
平成 31 年 2 月 6 日

「多摩都市計画道路 3・1・6 号南多摩尾根幹線（多摩市聖ヶ丘五丁目～南野三丁目間）建設事業」
特例環境配慮書審査意見書と環境影響評価書との関連

項 目	特例環境配慮書審査意見書の内容	環境影響評価書の記載内容
騒音・振動	自動車の走行に伴う道路交通騒音レベルは、評価の指標とした環境基準を満足するとしているが、計画道路の一部には車道と沿道の住宅地の高低差が一律でない区間が存在し、本事業による影響が懸念されていることから、環境保全のための措置を徹底すること。	鶴牧区間、諏訪・永山区間では、車道を道路敷地南側に集約する計画とすることで、北側の住居から道路までの離隔を確保し、騒音・振動の低減を図ることなどを環境保全のための措置に追記した。 (本編 194 ページ)
景観	計画道路において新たに擁壁が出現することについて、周辺住民や関係市長による景観への影響の懸念が示されていることから、擁壁の設計に当たっては周辺環境に配慮するよう検討すること。	擁壁が出現する鶴牧区間の車道の北側に新たに植樹帯を設け、緑の連続性の確保に努めることなどを環境保全のための措置に追記した。 (本編 330 ページ)
廃棄物	環境保全のための措置として、撤去路盤やガードレール等の鉄製金属について、再利用又は再資源化に努めているが、その排出量等が示されていない。しかし、本事業は、延長約 5.5 km の道路の改築をするものであり、相当量が発生すると考えられることから、排出量、再利用・再資源化量等についても予測・評価すること。	撤去路盤やガードレール等の鉄製金属について、排出量、再資源化量を予測し、環境影響の程度について評価した。 (本編 368、370 ページ)

事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	渋谷駅街区開発事業		
番号・答申日・受理日	1-300-1	H25. 3. 28	H30. 3. 13
事 業 の 種 類	高層建築物の新築		
規 模	計 画 地： 渋谷区渋谷二丁目、道玄坂一丁目・二丁目 敷 地 面 積： 約 15,300 m ² 建 築 面 積： 約 15,000 m ² 延 床 面 積： 約 268,000 m ² 最 高 高 さ： 東棟：約 230m、西棟：約 76m、中央棟：約 61m 主 要 用 途： 事務所、店舗、駐車場等 工 事 予 定 期 間： 平成 26 年度～平成 39 (2027) 年度 供 用 開 始 予 定： 東 棟：平成 31 (2019) 年度 西棟・中央棟：平成 39 (2027) 年度		
事後調査の区分	工事の施行中その2		
調査項目・事項	大気汚染、騒音・振動		
調査結果の内容	<p>1 大気汚染</p> <p>(1) 工事用車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気における濃度</p> <p>二酸化窒素の期間(7日間)平均値(0.023~0.034ppm)は、予測結果(0.02548~0.03728ppm)をNo.6を除き概ね同程度又は下回った。日平均値の最高値(0.030~0.040ppm)は、予測結果(日平均値の年間98%値0.046~0.061ppm)を下回り、参考比較した環境基準(0.04から0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下)の範囲内又は下回った。</p> <p>No.6で予測結果を上回った理由として、No.6は地形的に大気拡散しにくく、交通広場や交差点など大気汚染の増大要因があり、他地点と比べ大気汚染物質濃度が高くなりやすい傾向が確認されたものと推察される。</p> <p>浮遊粒子状物質の期間(7日間)平均値(0.016mg/m³)は、予測結果(0.02737mg/m³)を下回った。日平均値の最高値(0.026mg/m³)は、予測結果(日平均値の2%除外値0.061mg/m³)を下回り、参考比較した環境基準(0.10mg/m³以下)を下回った。</p> <p>2 騒音・振動</p> <p>(1) 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音</p> <p>道路交通騒音レベル(L_{Aeq})の事後調査結果([昼間]66~73dB)は、予測結果([昼間]66~74dB)と同程度又は下回った。また、夜間は予測していないが、事後調査結果([夜間]64~72dB)は、評価書段階の現地調査結果と概ね同程度であった。</p> <p>なお、No.4、No.6の昼夜間及びNo.7の夜間で環境基準([昼間]70dB [夜間]65dB)を上回ったが、評価書段階の現地調査においても環境基準を上回っていた。</p> <p>(2) 工事用車両の走行に伴う道路交通振動</p> <p>道路交通振動レベル(L₁₀)の事後調査結果([昼間]36~54dB [夜間]36~54dB)は、予測結果([昼間]37~54dB [夜間]34~54dB)をNo.6を除き概ね同程度又は下回った。また、全ての地点で環境確保条例に基づく規制基準([昼間]65dB以下 [夜間]60dB以下)を下回った。</p> <p>No.6で予測結果を上回った理由として、No.6の自動車交通量は昼夜間とも予測条件を下回っており、自動車交通量以外の要因によって振動レベルが上昇したものと考えられる。</p>		
苦 情 の 有 無	無		

事後調査報告書

事 業 名	東京都東尾久浄化センター建設事業																																				
番号・答申日・受理日	1-67-1	H2.10.24	H31.3.14																																		
事業の種類	終末処理場の設置																																				
規 模	所在地： 荒川区東尾久七丁目 面積： 約 7.4 ha (約 3.7ha は都立公園として利用予定) 主要施設： 脱炭酸・薬注・脱臭棟、砂ろ過槽、脱リン槽、放流ポンプ棟、塩素接触槽、放流渠 関連施設： 尾久系主ポンプ棟、西日暮里系主ポンプ室、雨水貯留池、送水管、吐口 放流先： 隅田川 工事期間： 平成4年度～平成38年度(2026年度)(予定) 供用開始： 平成38年度(2026年度)(予定)																																				
事後調査の区分	工事の施行中その7																																				
調査項目・事項	地盤沈下、その他(土壌汚染、残土の処分状況)																																				
調査結果の内容	<p>1 地盤沈下(計画地内掘削工事による地盤沈下の状況) 地下構造物の工事に際し、遮水性の高い連続地中壁工法やニューマチックケーソン工法を採用することにより、地下水の侵入を防止した。また、期間中で最大+10.9mmの地盤の変動が見られたものの、いずれの地点でも大きな地盤沈下は認められなかった。 以上から、掘削による地盤沈下はほとんどなかったものと考えられる。</p> <p>2 その他 (1) 土壌汚染 掘削した汚染土壌は、敷鉄板及び遮水シートで遮断された仮置き場に仮置きした後、水上及び陸上運搬により搬出処分した。仮置き時及び運搬時にはシート掛けにより飛散防止を行った。 また、尾久系主ポンプ室下部に封じ込め槽を設け、適切に封じ込めた。</p> <p>(2) 残土の処分状況 (尾久系主ポンプ室建設工事に関する期間(H27.4～H30.3)における発生土量)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">項目</th> <th style="width: 20%;">土量 (m³)</th> <th style="width: 50%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center; vertical-align: middle;">発生土量</td> <td>場内仮置き土</td> <td style="text-align: center;">7,200</td> <td>工事以前からの仮置き土</td> </tr> <tr> <td>一次掘削工</td> <td style="text-align: center;">45,183</td> <td></td> </tr> <tr> <td>沈下掘削工</td> <td style="text-align: center;">124,344</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他掘削</td> <td style="text-align: center;">10,359</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">187,086</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center; vertical-align: middle;">処分状況</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">場外搬出</td> <td style="text-align: center;">2,983</td> <td>新海面処分場の受入基準を満たした土は基盤整備用材として再利用</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">166,816</td> <td>VOC類、重金属類による汚染土及びダイオキシン類1,000～3,000pg-TEQ/gの汚染土は、それぞれ受入に適合した民間処分場へ搬出</td> </tr> <tr> <td>埋戻</td> <td style="text-align: center;">9,050</td> <td>ダイオキシン類1,000pg-TEQ/g未満</td> </tr> <tr> <td>封じ込め</td> <td style="text-align: center;">8,237</td> <td>ダイオキシン類3,000pg-TEQ/g超</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">187,086</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			項目	土量 (m ³)	備考	発生土量	場内仮置き土	7,200	工事以前からの仮置き土	一次掘削工	45,183		沈下掘削工	124,344		その他掘削	10,359		合計	187,086		処分状況	場外搬出	2,983	新海面処分場の受入基準を満たした土は基盤整備用材として再利用	166,816	VOC類、重金属類による汚染土及びダイオキシン類1,000～3,000pg-TEQ/gの汚染土は、それぞれ受入に適合した民間処分場へ搬出	埋戻	9,050	ダイオキシン類1,000pg-TEQ/g未満	封じ込め	8,237	ダイオキシン類3,000pg-TEQ/g超	合計	187,086	
項目	土量 (m ³)	備考																																			
発生土量	場内仮置き土	7,200	工事以前からの仮置き土																																		
	一次掘削工	45,183																																			
	沈下掘削工	124,344																																			
	その他掘削	10,359																																			
	合計	187,086																																			
処分状況	場外搬出	2,983	新海面処分場の受入基準を満たした土は基盤整備用材として再利用																																		
		166,816	VOC類、重金属類による汚染土及びダイオキシン類1,000～3,000pg-TEQ/gの汚染土は、それぞれ受入に適合した民間処分場へ搬出																																		
	埋戻	9,050	ダイオキシン類1,000pg-TEQ/g未満																																		
	封じ込め	8,237	ダイオキシン類3,000pg-TEQ/g超																																		
	合計	187,086																																			
苦情の有無	無																																				

事後調査報告書

事 項	内 容		
事業名	日の出町二ツ塚廃棄物広域処分場建設事業		
番号・答申日・受理日	1-137-2	H7.5.19	H31.3.15
事業の種類	廃棄物処理施設の設置		
規模	位置： 西多摩郡日の出町大字大久野字玉の内 面積： 59.1ha 全体容量： 370万m ³ 工事期間： 平成7年度～平成39年度（2027年度）（予定）		
事後調査の区分	工事の施行中その11		
調査項目・事項	水質汚濁(参考調査)、地形・地質、水循環(参考調査)、生物・生態系		
調査結果の内容	<p>1 水質汚濁（参考調査） 河川水質は、谷古入沢及び玉の内川下流において、カドミウム等の環境基準値が定められている項目について、いずれも基準値を下回った。また、埋立開始前との比較では、特段大きな変化は生じていなかった。 河川底質は、谷古入沢及び玉の内川下流において、検出された物質の濃度は、自然的原因による含有量の範囲内であり、いずれも埋立開始前の調査結果とほぼ同程度の濃度であった。なお、河川底質については、環境基準は設定されていない。 地下水質は、二ツ塚処分場直下のモニタリング井戸及び玉の内川沿いの民家井戸の2地点において、カドミウム等の環境基準値の定められている項目について、いずれも基準値を下回った。また、埋立開始前との比較では、特段大きな変化は生じていなかった。</p> <p>2 地形・地質 貯留堤及びその周辺は、安定計算結果を踏まえた盛土が行われており、目視で確認できるような斜面のすべり等はなく、貯留堤及びその周辺の安定性は確保されていた。</p> <p>3 水循環（参考調査） (1) 河川の流量、流速の変化の程度 二ツ塚処分場直下及び玉の内川下流の河川流量は、玉の内川流域における開発等に伴う影響がみられるものの、豊水期及び渇水期ともに大きな変化はみられないことから、河川の流量、流速に著しい影響を及ぼしていないものとする。</p> <p>(2) 地下水の水位、流量の変化の程度 モニタリング井戸及び民家井戸の地下水位は、年間を通して大きな水位変動はなく安定しており、イオンバランスが変化するような地下水質の変化も生じていないことから、地下水の水位、流量に著しい影響を及ぼしていないものとする。</p> <p>4 生物・生態系 (1) 生息（育）環境の変化の内容及びその程度 二ツ塚処分場の約41%に当たる24.4haは残留緑地として確保されており、また、埋立が終了した第1期埋立区域等において、クズ・ススキ群落等の草地が二ツ塚処分場の約30%に当たる17.9ha分布し、植物、動物の生息（育）環境となっている。残留緑地において、スギ・ヒノキ植林の林相転換を進めるとともに、貴重植物種の移植先環境の維持、トウキョウサンショウウオ等を対象とした繁殖地である保全ゾーンの維持管理を継続しており、二ツ塚処分場における多様な生息（育）環境の形成が図られている。</p>		

事 項	内 容
調査結果の内容	<p>(2) 植物相、植物群落及び緑の量の変化の内容及びその程度 植物相について、事後調査結果（123 科 659 種）は評価書時の調査結果（119 科 624 種）とおおむね同等である。注目される種（23 科 49 種）は評価書時の調査結果（24 科 47 種）とおおむね同等である。また、移植対象種は移植先での生育環境が確保され、おおむね良好な状態で推移している。</p> <p>植物群落について、スギ・ヒノキ植林の林相転換の効果が徐々に現れ、二次林であるコナラ群落の面積が多くなっており、また、クズ・ススキ群落の面積も多くなっていることから緑被面積が増加している。</p> <p>緑の量について、予測結果とおおむね同様の傾向であり、樹林地及び草地の面積やモミ群落、スギ・ヒノキ群落等の樹林地の平均樹高の増加によって、緑の量が増加している。</p> <p>(3) 動物相の変化の内容及びその程度 ほ乳類について、事後調査結果（12 科 20 種）は評価書時の調査結果（6 科 12 種）より増加しているほか、鳥類、は虫類・両生類、水生生物についても評価書と同程度又は増加している。</p> <p>昆虫類について、事後調査結果（197 科 906 種）は評価書時の調査結果（147 科 595 種）とは確認種が変化しており、スギ・ヒノキ植林の林相転換による森林及び林縁性種の増加と、造成裸地の草地化による草地性種の増加が考えられる。</p> <p>(4) 生態系の変化の内容及びその程度 生息（育）基盤において草地が増加し、人工改変地が減少しており、それに伴い一部の生息種の増減がみられるが、高次の生態系が維持されたとした予測結果とおおむね同様となっている。</p>
苦 情 の 有 無	無

事後調査報告書

事 業 名	内 容		
事業名	赤坂一丁目地区第一種市街地再開発事業		
番号・答申日・受理日	1-287-1	H23. 10. 26	H31. 3. 15
事業の種類	高層建築物の新築		
規 模	位 置：港区赤坂一丁目8番1号 敷 地 面 積：16,088.32 m ² 延 床 面 積：178,328.01 m ² 最 高 高 さ：205.08m 主 要 用 途：業務、住宅、商業、駐車場 駐 車 台 数：314台 工 事 期 間：平成26年1月～平成29年8月 供 用 開 始：平成29年9月		
事後調査の区分	工事の完了後		
調査項目・事項	大気汚染、日影、電波障害、風環境、景観		
調査結果の内容	<p>1 大気汚染</p> <p>(1) 関連車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度 二酸化窒素の期間(7日間)平均値(0.016～0.020ppm)は、全ての地点で予測結果(0.02672～0.03498ppm)を下回った。日平均値の最高値(0.017～0.022ppm)は、全ての地点で予測結果(0.048～0.058ppm)及び参考比較した環境基準(0.04から0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下)を下回った。 浮遊粒子状物質の期間(7日間)平均値(0.013mg/m³)は、予測結果(0.02305 mg/m³)を下回った。日平均値の最高値(0.021mg/m³)は、予測結果(0.052 mg/m³)及び参考比較した環境基準(0.10 mg/m³以下)を下回った。</p> <p>(2) 駐車場からの排気ガスによる二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度 二酸化窒素の期間(7日間)平均値(0.017ppm)は、予測結果(0.02861ppm)を下回った。日平均値の最高値(0.021ppm)は、予測結果(0.050ppm)及び参考比較した環境基準(0.04から0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下)を下回った。 浮遊粒子状物質の期間(7日間)平均値(0.013mg/m³)は、予測結果(0.02310 mg/m³)を下回った。日平均値の最高値(0.021mg/m³)は、予測結果(0.052mg/m³)及び参考比較した環境基準(0.10mg/m³以下)を下回った。</p> <p>(3) 熱源施設からの排出ガスによる二酸化窒素の大気中における濃度 事後調査における排気口の位置、排気口高さ及び熱源施設の諸元は予測条件と同様であった。また、主要用途が業務であることから、発電を行うコージェネレーション熱源施設の稼働は主に平日で、土日祝日は稼働していないことが多く、日稼働時間は予測条件に比べて短かった。 なお、大気汚染防止法に基づくばい煙量等測定結果によると、湿り排出ガス量及び乾き排出ガス量は予測条件とおおむね同様であり、窒素酸化物排出濃度は低かった。 以上のことから、熱源施設からの排出ガスによる二酸化窒素の大気中における濃度は、予測結果及び環境基準値を下回ると考える。</p>		

事 項	内 容
	<p>2 日影</p> <p>(1) 日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間数等の状況の変化の程度 計画建物の配置、高さ、形状は、予測条件とおおむね同様であり、特に配慮すべき施設等における計画建物による日影となる時刻、時間数等の事後調査結果は、予測結果とおおむね同様であった。</p> <p>(2) 冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度 計画建物の配置、高さ、形状は、予測条件とおおむね同様であり、冬至日における日影の範囲、時刻、時間数等の事後調査結果は、予測結果とおおむね同様であった。</p> <p>3 電波障害（建築物等の設置によるテレビ電波の遮へい障害及び反射障害の範囲） 計画建物の遮へい障害範囲内の一部の地点において、品質評価が低くなったものの、画像評価は全て「正常に受信」であり、電波障害に係る苦情等はなかったことから、計画建築物によるテレビ電波の受信障害は発生していないと考えられる。</p> <p>4 風環境（風向、風速が変化する地域の範囲及び変化の程度並びに年間における強風の出現頻度） 計画建物の配置、高さ、形状、防風植栽の配置は、予測条件とおおむね同様であり、事後調査結果は、ランク1又はランク2で、予測結果とおおむね同様であった。</p> <p>5 景観</p> <p>(1) 主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度 本事業の高層棟は、周辺において主要な景観要素となり、計画建物を含む周辺の既存建築物・建築物群により構成されるまとまりのあるスカイラインが形成されている。また、高層棟の東側の緑豊かな憩いの空間や計画地南側区道に沿った緑道を整備することにより、まとまりのある緑地空間を形成した。 以上のことから、事後調査結果は、予測結果とおおむね一致しているものとする。</p> <p>(2) 代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度 計画建物の配置、高さ、形状は、予測条件とおおむね同様であり、計画建物はおおむね予測どおりの位置に視認され、既存建築物と一体となったまとまりのあるスカイラインを形成している。</p> <p>(3) 圧迫感の変化の程度 既存建築物を含む形態率は予測結果と同程度であり、計画建物は予測どおりの位置に視認された。また、現況の形態率からの増加分は予測と同程度であった。</p>
苦 情 の 有 無	無

事後調査報告書

事 項	内 容																																																																																																																
事業名	豊洲新市場建設事業																																																																																																																
番号・答申日・受理日	2-242-2	H23. 4. 19	H31. 2. 21																																																																																																														
事業の種類	卸売市場の設置、自動車駐車場の設置																																																																																																																
規模	計 画 地：江東区豊洲六丁目地内 敷 地 面 積：約 407,000 m ² 主 要 用 途：卸売市場、商業施設、駐車場 駐 車 場 台 数：約 6,300 台 工事予定期間：平成 23 年度～平成 30 年度以降 新市場開場：平成 30 年 10 月 11 日 先客万来施設開場予定：平成 30 年度以降																																																																																																																
事後調査の区分	工事の施行中その 7																																																																																																																
調査項目・事項	地盤、水循環、廃棄物、その他（水質汚濁（汚染土壌）、土壌汚染）																																																																																																																
調査結果の内容	<p>1 地盤（地下水の揚水に伴う地盤沈下の範囲及び程度） 地下水位は 2 地点ともに 1～2m の幅の変動が見られたが、降雨と連動しており、工事の影響と考えられる著しい変動は見られなかったことから計画地周辺での地下水位の低下に起因する地盤への影響は小さいと考えられる。</p> <p>2 水循環（地下水の揚水に伴う地下水の水位の変化の程度） 地下水位は 2 地点ともに 1～2m の幅の変動が見られたが、いずれも降雨と連動しており、工事の影響と考えられる著しい変動は見られなかった。</p> <p>3 廃棄物（建設発生土及び建設廃棄物の排出量） 地下水管理システム機能強化対策工事、地下ピット床面等追加対策工事及び地下ピット換気設備追加対策工事の廃棄物については、（1）、（2）に示すとおりである。工事は平成 30 年 7 月で完了している。</p> <p>(1) 建設発生土の排出量</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; width: 60%;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">予測 (m³)</th> <th style="text-align: center;">事後調査結果 (m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土木工事（屋外付帯工事）</td> <td style="text-align: center;">2,000</td> <td style="text-align: center;">512.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 建設廃棄物の排出量（土木工事及び地下部分の建築工事）</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">廃棄物の種類</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="6">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">発生量</th> <th rowspan="2">再利用・再資源化率 [%]</th> <th colspan="3">今回発生量</th> <th colspan="3">累計発生量</th> <th rowspan="2">再利用・再資源化率 [%]</th> </tr> <tr> <th>建築工事</th> <th>土木工事</th> <th>合計</th> <th>建築工事</th> <th>土木工事</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td style="text-align: center;">2,150t</td> <td style="text-align: center;">99以上</td> <td style="text-align: center;">135.9 t</td> <td style="text-align: center;">96.6 t</td> <td style="text-align: center;">232.5 t</td> <td style="text-align: center;">327.7t</td> <td style="text-align: center;">124.6t</td> <td style="text-align: center;">452.3t</td> <td style="text-align: center;">98.6</td> </tr> <tr> <td>がれき類</td> <td style="text-align: center;">3,050t</td> <td style="text-align: center;">99以上</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">900.0 t</td> <td style="text-align: center;">900.0 t</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">1718.0t</td> <td style="text-align: center;">1718.0t</td> <td style="text-align: center;">99.7</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td style="text-align: center;">732t</td> <td style="text-align: center;">99以上</td> <td style="text-align: center;">7.4 t</td> <td style="text-align: center;">17.6 t</td> <td style="text-align: center;">25.0 t</td> <td style="text-align: center;">9.8t</td> <td style="text-align: center;">18.3t</td> <td style="text-align: center;">28.1t</td> <td style="text-align: center;">100</td> </tr> <tr> <td>廃プラ</td> <td style="text-align: center;">330t</td> <td style="text-align: center;">84.3</td> <td style="text-align: center;">21.1 t</td> <td style="text-align: center;">32.1 t</td> <td style="text-align: center;">53.2 t</td> <td style="text-align: center;">24.9t</td> <td style="text-align: center;">36.1t</td> <td style="text-align: center;">61.0t</td> <td style="text-align: center;">89.8</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td style="text-align: center;">595t</td> <td style="text-align: center;">100</td> <td style="text-align: center;">14.7 t</td> <td style="text-align: center;">0.3 t</td> <td style="text-align: center;">15.0 t</td> <td style="text-align: center;">19.3t</td> <td style="text-align: center;">0.4t</td> <td style="text-align: center;">19.7t</td> <td style="text-align: center;">100</td> </tr> <tr> <td>建設混合廃棄物</td> <td style="text-align: center;">60t</td> <td style="text-align: center;">82</td> <td style="text-align: center;">43.7 t</td> <td style="text-align: center;">13.1 t</td> <td style="text-align: center;">56.8 t</td> <td style="text-align: center;">51.9t</td> <td style="text-align: center;">15.2t</td> <td style="text-align: center;">67.1t</td> <td style="text-align: center;">79.1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: center;">6,917t</td> <td style="text-align: center;">98.3</td> <td style="text-align: center;">222.8 t</td> <td style="text-align: center;">1059.7 t</td> <td style="text-align: center;">1282.5 t</td> <td style="text-align: center;">433.6t</td> <td style="text-align: center;">1912.6t</td> <td style="text-align: center;">2346.2t</td> <td style="text-align: center;">98.6</td> </tr> <tr> <td>建設汚泥</td> <td style="text-align: center;">約200m³</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">108.9m³</td> <td style="text-align: center;">108.9m³</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">112.1m³</td> <td style="text-align: center;">112.1m³</td> <td style="text-align: center;">99.2</td> </tr> </tbody> </table>				予測 (m ³)	事後調査結果 (m ³)	土木工事（屋外付帯工事）	2,000	512.9	廃棄物の種類	予測結果		事後調査結果						発生量	再利用・再資源化率 [%]	今回発生量			累計発生量			再利用・再資源化率 [%]	建築工事	土木工事	合計	建築工事	土木工事	合計	コンクリート	2,150t	99以上	135.9 t	96.6 t	232.5 t	327.7t	124.6t	452.3t	98.6	がれき類	3,050t	99以上	-	900.0 t	900.0 t	-	1718.0t	1718.0t	99.7	木くず	732t	99以上	7.4 t	17.6 t	25.0 t	9.8t	18.3t	28.1t	100	廃プラ	330t	84.3	21.1 t	32.1 t	53.2 t	24.9t	36.1t	61.0t	89.8	金属くず	595t	100	14.7 t	0.3 t	15.0 t	19.3t	0.4t	19.7t	100	建設混合廃棄物	60t	82	43.7 t	13.1 t	56.8 t	51.9t	15.2t	67.1t	79.1	計	6,917t	98.3	222.8 t	1059.7 t	1282.5 t	433.6t	1912.6t	2346.2t	98.6	建設汚泥	約200m ³	-	-	108.9m ³	108.9m ³	-	112.1m ³	112.1m ³	99.2
	予測 (m ³)	事後調査結果 (m ³)																																																																																																															
土木工事（屋外付帯工事）	2,000	512.9																																																																																																															
廃棄物の種類	予測結果		事後調査結果																																																																																																														
	発生量	再利用・再資源化率 [%]	今回発生量			累計発生量			再利用・再資源化率 [%]																																																																																																								
			建築工事	土木工事	合計	建築工事	土木工事	合計																																																																																																									
コンクリート	2,150t	99以上	135.9 t	96.6 t	232.5 t	327.7t	124.6t	452.3t	98.6																																																																																																								
がれき類	3,050t	99以上	-	900.0 t	900.0 t	-	1718.0t	1718.0t	99.7																																																																																																								
木くず	732t	99以上	7.4 t	17.6 t	25.0 t	9.8t	18.3t	28.1t	100																																																																																																								
廃プラ	330t	84.3	21.1 t	32.1 t	53.2 t	24.9t	36.1t	61.0t	89.8																																																																																																								
金属くず	595t	100	14.7 t	0.3 t	15.0 t	19.3t	0.4t	19.7t	100																																																																																																								
建設混合廃棄物	60t	82	43.7 t	13.1 t	56.8 t	51.9t	15.2t	67.1t	79.1																																																																																																								
計	6,917t	98.3	222.8 t	1059.7 t	1282.5 t	433.6t	1912.6t	2346.2t	98.6																																																																																																								
建設汚泥	約200m ³	-	-	108.9m ³	108.9m ³	-	112.1m ³	112.1m ³	99.2																																																																																																								

事 項	内 容																																																																																			
調査結果の内容	<p data-bbox="443 241 1082 277">(3) 建設廃棄物の発生量（地上部分の建築工事）</p> <p data-bbox="472 282 1460 539">地上部分の建築工事による建設廃棄物の発生量が予測値を上回った理由としては、卸売市場の用途の特殊性から、使用する建築部材等が多岐に渡り、端尺等の使用されない部材が出やすい状況にあったことなどが挙げられる。また、ガラスくず及び廃プラスチック類の再利用・再資源化率が予測結果を下回った理由としては、塗装等の付着したガラスくずが再資源化できなかったこと、内装工事等複数の工事が同時に実施され再資源化が困難なプラスチック類の混合廃棄物となったことが挙げられる。</p> <p data-bbox="1177 548 1433 577" style="text-align: right;">（事後調査結果は途中経過）</p> <table border="1" data-bbox="437 577 1460 1223"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="437 577 759 712" rowspan="2">廃棄物の種類</th> <th colspan="2" data-bbox="759 577 1034 712">予測結果</th> <th colspan="3" data-bbox="1034 577 1460 712">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th data-bbox="759 613 890 712">発生量 (t)</th> <th data-bbox="890 613 1034 712">再利用・再 資源化率 (%)</th> <th data-bbox="1034 613 1182 712">今回発生量 (t)</th> <th data-bbox="1182 613 1313 712">累計 (t)</th> <th data-bbox="1313 613 1460 712">再利用・再資 源化率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="437 712 507 1223" rowspan="9" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">分別 廃棄物</td> <td data-bbox="507 712 584 757">がれ き類</td> <td data-bbox="584 712 759 757">コンクリートがら</td> <td data-bbox="759 712 890 757">3,982.7</td> <td data-bbox="890 712 1034 757">99以上</td> <td data-bbox="1034 712 1182 757">0</td> <td data-bbox="1182 712 1313 757">5,163.2</td> <td data-bbox="1313 712 1460 757">99.7</td> </tr> <tr> <td data-bbox="507 757 584 801">き類</td> <td data-bbox="584 757 759 801">その他がれき類</td> <td data-bbox="759 757 890 801">1,129.0</td> <td data-bbox="890 757 1034 801">99以上</td> <td data-bbox="1034 757 1182 801">20.0</td> <td data-bbox="1182 757 1313 801">3,271.0</td> <td data-bbox="1313 757 1460 801">96.8</td> </tr> <tr> <td data-bbox="507 801 584 875">ガラスくず・コンクリートくず及 び陶磁器くず</td> <td data-bbox="584 801 759 875"></td> <td data-bbox="759 801 890 875">1,410.1</td> <td data-bbox="890 801 1034 875">95.9</td> <td data-bbox="1034 801 1182 875">2.5</td> <td data-bbox="1182 801 1313 875">4,178.3</td> <td data-bbox="1313 801 1460 875">83.4</td> </tr> <tr> <td data-bbox="507 875 584 920">廃プラスチック類</td> <td data-bbox="584 875 759 920"></td> <td data-bbox="759 875 890 920">622.7</td> <td data-bbox="890 875 1034 920">95.9</td> <td data-bbox="1034 875 1182 920">0.1</td> <td data-bbox="1182 875 1313 920">2,715.3</td> <td data-bbox="1313 875 1460 920">86.0</td> </tr> <tr> <td data-bbox="507 920 584 965">金属くず</td> <td data-bbox="584 920 759 965"></td> <td data-bbox="759 920 890 965">1,102.5</td> <td data-bbox="890 920 1034 965">95.9</td> <td data-bbox="1034 920 1182 965">1.7</td> <td data-bbox="1182 920 1313 965">3,836.1</td> <td data-bbox="1313 920 1460 965">96.8</td> </tr> <tr> <td data-bbox="507 965 584 1010">木くず</td> <td data-bbox="584 965 759 1010"></td> <td data-bbox="759 965 890 1010">1,532.4</td> <td data-bbox="890 965 1034 1010">99以上</td> <td data-bbox="1034 965 1182 1010">0</td> <td data-bbox="1182 965 1313 1010">2,393.9</td> <td data-bbox="1313 965 1460 1010">97.2</td> </tr> <tr> <td data-bbox="507 1010 584 1055">紙くず</td> <td data-bbox="584 1010 759 1055"></td> <td data-bbox="759 1010 890 1055">746.7</td> <td data-bbox="890 1010 1034 1055">95.9</td> <td data-bbox="1034 1010 1182 1055">0.2</td> <td data-bbox="1182 1010 1313 1055">1,039.5</td> <td data-bbox="1313 1010 1460 1055">92.3</td> </tr> <tr> <td data-bbox="507 1055 584 1099">計</td> <td data-bbox="584 1055 759 1099"></td> <td data-bbox="759 1055 890 1099">10,526.1</td> <td data-bbox="890 1055 1034 1099">97.9</td> <td data-bbox="1034 1055 1182 1099">24.6</td> <td data-bbox="1182 1055 1313 1099">22,597.3</td> <td data-bbox="1313 1055 1460 1099">93.5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="507 1099 584 1144">建設混合廃棄物</td> <td data-bbox="584 1099 759 1144"></td> <td data-bbox="759 1099 890 1144">4,214.7</td> <td data-bbox="890 1099 1034 1144">52.9</td> <td data-bbox="1034 1099 1182 1144">11.4</td> <td data-bbox="1182 1099 1313 1144">4,097.1</td> <td data-bbox="1313 1099 1460 1144">75.2</td> </tr> <tr> <td data-bbox="507 1144 584 1223">総 計</td> <td data-bbox="584 1144 759 1223"></td> <td data-bbox="759 1144 890 1223">14,740.8</td> <td data-bbox="890 1144 1034 1223">85.0</td> <td data-bbox="1034 1144 1182 1223">36.0</td> <td data-bbox="1182 1144 1313 1223">26,694.4</td> <td data-bbox="1313 1144 1460 1223">90.7</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="443 1272 906 1308">4 その他（水質汚濁（汚染土壌））</p> <p data-bbox="472 1312 1460 1413">地下水の水質確認については、濃度確認モニタリング井戸（29 地点）では1か月に1回、全体確認モニタリング井戸（46 地点）では3か月に1回の頻度で行った。</p> <p data-bbox="472 1417 1460 1525">地下水中のベンゼン、シアン、ヒ素の状況については、地下水管理システムによる揚水開始後の状況と大きく変わってはいないと考えられると専門家会議の評価を受けている。</p> <p data-bbox="443 1570 746 1606">5 その他（土壌汚染）</p> <p data-bbox="472 1610 1460 1711">地下ピット床面等追加対策工事及び地下ピット換気設備追加対策工事完了後、地下ピット内の空気中の揮発性物質（ベンゼン、シアン、水銀）濃度の確認を毎月実施した。</p> <p data-bbox="501 1715 1362 1751">いずれの測定結果についても、大気環境基準値等に適合している。</p>	廃棄物の種類		予測結果		事後調査結果			発生量 (t)	再利用・再 資源化率 (%)	今回発生量 (t)	累計 (t)	再利用・再資 源化率 (%)	分別 廃棄物	がれ き類	コンクリートがら	3,982.7	99以上	0	5,163.2	99.7	き類	その他がれき類	1,129.0	99以上	20.0	3,271.0	96.8	ガラスくず・コンクリートくず及 び陶磁器くず		1,410.1	95.9	2.5	4,178.3	83.4	廃プラスチック類		622.7	95.9	0.1	2,715.3	86.0	金属くず		1,102.5	95.9	1.7	3,836.1	96.8	木くず		1,532.4	99以上	0	2,393.9	97.2	紙くず		746.7	95.9	0.2	1,039.5	92.3	計		10,526.1	97.9	24.6	22,597.3	93.5	建設混合廃棄物		4,214.7	52.9	11.4	4,097.1	75.2	総 計		14,740.8	85.0	36.0	26,694.4	90.7
	廃棄物の種類			予測結果		事後調査結果																																																																														
発生量 (t)			再利用・再 資源化率 (%)	今回発生量 (t)	累計 (t)	再利用・再資 源化率 (%)																																																																														
分別 廃棄物	がれ き類	コンクリートがら	3,982.7	99以上	0	5,163.2	99.7																																																																													
	き類	その他がれき類	1,129.0	99以上	20.0	3,271.0	96.8																																																																													
	ガラスくず・コンクリートくず及 び陶磁器くず		1,410.1	95.9	2.5	4,178.3	83.4																																																																													
	廃プラスチック類		622.7	95.9	0.1	2,715.3	86.0																																																																													
	金属くず		1,102.5	95.9	1.7	3,836.1	96.8																																																																													
	木くず		1,532.4	99以上	0	2,393.9	97.2																																																																													
	紙くず		746.7	95.9	0.2	1,039.5	92.3																																																																													
	計		10,526.1	97.9	24.6	22,597.3	93.5																																																																													
	建設混合廃棄物		4,214.7	52.9	11.4	4,097.1	75.2																																																																													
総 計		14,740.8	85.0	36.0	26,694.4	90.7																																																																														
苦情の有無	無																																																																																			

事後調査報告書

事 項	内 容		
事業名	首都圏中央連絡道路(一般国道20号～埼玉県境間)建設事業		
番号・答申日・受理日	2-37-2	S63.11.1	H31.3.15
事業の種類	道路の新設		
規 模	事業延長：約22.5km 区 間：(起点)八王子市南浅川町(一般国道20号) (終点)青梅市今井五丁目(埼玉県境) 車線数：往復4車線 道路構造：土工(切土、盛土)(約4.3km)、高架・橋梁(約3.8km)、 トンネル(約12.5km)、掘割(約1.9km) 工事期間：平成5年12月～平成24年3月 供用開始年月：平成24年3月		
事後調査の区分	工事の完了後その3		
調査項目・事項	陸上植物、陸上動物、景観		
調査結果の内容	<p>1 陸上植物</p> <p>(1) 緑の量の変化の程度 各地域の緑の量の変化(-0.2～+1.9ha)は、予測結果(-0.5～+1.4ha)と比べて美山地域は下回ったが、その他2地域は同等又は上回った。美山地域が予測を下回った理由は、供用開始後に出入口が新設されたことに伴い一部植栽ができなかったことが挙げられる。当該地域の合計では予測結果と同等以上確保したことから、計画路線周辺の植物相及び植物群落に大幅な退行的変化を生じさせていないと考える。</p> <p>(2) 植物の変化の程度 土工により改変を受ける林縁環境には、先駆性樹林環境が形成されていること、潜在自然植生を主な構成種とする樹林を創造したことにより、林縁の開放による植生への影響は少なかったと考える。 八王子城址トンネルの自然林は、評価書では同一範囲でカシ林とモミ林が確認されていたが、事後調査では、モミ群衆からカシ類に遷移が確認された。また、ヒメニラやナライシダ等の注目すべき種は確認された。</p> <p>2 陸上動物(河道の変更、通行車両による生息状況、生息環境の変化の程度) 事後調査では、各地域でノウサギやニホンリス等、評価書よりも多くの哺乳類が確認され、鳥類は改変を受ける個所を植林することにより生息環境は復元されていることから陸上動物への影響は少なかった。また、注目すべき動物種(両生類、昆虫類)の生息が確認された。</p> <p>3 景観</p> <p>(1) 地域景観の特性の変化 潜在自然植生を主な構成種とする樹林を創造したこと、道路構造形式や色彩等の環境保全措置を実施したことにより、予測結果のとおり事業による影響は少なかった。</p> <p>(2) 代表的な眺望地点からの眺望の変化 遮音壁の上部を透光板にするなどの環境保全措置を行い圧迫感、違和感、煩雑な印象は軽減され、予測どおり影響は少なかった。</p>		
苦情の有無	無		

事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	三鷹都市計画道路 3・2・6 号調布保谷線 武蔵野都市計画道路 3・3・6 号調布保谷線 (三鷹市野崎～武蔵野市関前間) 建設事業		
番号・答申日・受理日	2-186-2	H12. 3. 27	H31. 3. 18
事 業 の 種 類	道路の新設		
規 模	延 長：約 3.1km 起 点：三鷹市野崎二丁目 終 点：武蔵野市関前一丁目 車 線 数：本線 4 車線 道 路 幅 員：36m 道 路 構 造：平面部 約 3.07km、橋梁部 約 0.03km 工 事 期 間：平成 17 年度～平成 30 年度（予定） 供 用 開 始：平成 31 年度（予定）		
事後調査の区分	工事の施行中その 8		
調査項目・事項	騒音、振動、植物・動物（陸上植物、陸上動物）		
調査結果の内容	<p>1 騒音（建設機械の稼働に伴う建設作業騒音） 各工種の事後調査結果（63～80dB）は、全ての工種で予測結果（73～80dB）と同程度又は下回った。また、全ての工種で環境確保条例に基づく勧告基準（80dB 以下）と同値または下回った。</p> <p>2 振動（建設機械の稼働に伴う建設作業振動） 各工種の事後調査結果（48～65dB）は、土工（舗装版とりこわし）において、予測結果（56dB）を上回り、その他の工種では同程度又は下回った。また、全ての工種で環境確保条例に基づく勧告基準（70dB 以下）を下回った。予測結果を上回った理由は、周辺の交通への影響を最小限にするため、予測条件よりも多い台数の建設機械が同時に稼働していたことが考えられる。</p> <p>3 陸上植物 (1) 生育環境の変化の程度 計画路線と玉川上水との交差部の工事地点近傍の一部では、工事による影響が生じたと考えられるが、生育環境の保全に努めた。また、沿道地域の緑地の分布に大きな変化は見られないことから、予測結果と同様に、樹木等の生育に及ぼした影響は少なかったと考えられる。 (2) 植物個体及び植物群落の変化の程度 ① 植物個体の変化の程度 事後調査における確認種は合計 114 科 506 種であり、評価書における確認種（合計 88 科 275 種）を上回った。注目される種（6 種）は評価書時の調査結果の該当種（1 種）を上回った。工事施行により事業区域周辺における植物の生育環境に及ぼした影響は軽微であったと考えられる。 ② 植物群落の変化の程度 事後調査で確認された植物群落の構成種は、評価書時の調査結果と比較して大きな変化はなかった。工事施行により伐採等が行われたものの、伐採等により生じた影響は工事地点近傍の一部にとどまり、植物群落の生育環境に及ぼした影響は比較的軽微であったものと考えられる。</p>		

事 項	内 容
	<p>(3) 緑の量の変化の程度 事後調査において調査範囲全域で約 8.9ha の緑地が確認され、そのうち計画路線では約 1.0ha の緑地が確認された。計画路線の緑地は、今後の工事により影響を受けると考えられるが、環境施設帯等への植栽により、事業完了時の緑の量は予測と同程度まで回復すると考えられる。</p> <p>4 陸上動物</p> <p>(1) 哺乳類 事後調査における確認種は合計 4 目 5 科 5 種であり、評価書における確認種（合計 2 目 2 科 2 種）を上回り、評価書時点と同等の生育環境が確認されていることから、事業区域及び周辺地域における哺乳類の生育環境に及ぼした影響はわずかであったと考えられる。</p> <p>(2) 鳥類 事後調査における確認種は合計 10 目 24 科 35 種であり、評価書における確認種（合計 7 目 17 科 26 種）を上回った。注目される種（9 種）は評価書時の調査結果の該当種（6 種）を上回った。評価書時点と同等の生育環境が確認されていることから、事業区域及び周辺地域における鳥類の生育環境に及ぼした影響はわずかであったと考えられる。</p> <p>(3) 爬虫類・両生類 事後調査における爬虫類の確認種は合計 2 目 6 科 8 種であり、評価書における確認種（合計 3 目 3 科 4 種）を上回った。注目される種（2 種）は評価書時の調査結果の該当種（1 種）を上回った。また、事後調査における両生類の確認種は合計 1 目 3 科 3 種であり、評価書における確認種（合計 1 目 2 科 2 種）を上回った。注目される種（7 種）は評価書時の調査結果の該当種（3 種）を上回った。爬虫類の生育環境の変化の程度は小さく、両生類の繁殖場所となる水辺環境が確認されていることから、事業区域及び周辺地域における爬虫類・両生類の生育環境に及ぼした影響はわずかであったと考えられる。</p> <p>(4) 昆虫類 事後調査における確認種は合計 12 目 132 科 351 種であり、評価書における確認種（合計 8 目 39 科 77 種）を上回った。注目される種（6 種）は評価書時の調査結果の該当種（1 種）を上回った。評価書時点と同等の生育環境が確認されていることから、事業区域周辺における昆虫類の生育環境に及ぼした影響は軽微であったと考えられる。</p>
苦情の有無	無

事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	小田急電鉄小田原線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）の連続立体交差及び複々線化事業		
番号・答申日・受理日	2-219-2	H14. 9. 17	H31. 3. 18
事 業 の 種 類	鉄道の改良		
規 模	起 点：渋谷区大山町及び上原三丁目 終 点：世田谷区代田三丁目及び四丁目 事業延長：約 2.2km 構造形式：地下式、高架式 対 象 駅：東北沢駅、下北沢駅、世田谷代田駅 工事予定期間：平成 16 年度～平成 30 年度 供 用 開 始：地下化 平成 25 年 3 月、複々線化 平成 30 年 3 月		
事後調査の区分	工事の施行中その 3		
調査項目・事項	騒音、振動、地盤沈下、地形・地質、水文環境、廃棄物		
調査結果の内容	<p>1 騒音</p> <p>(1) 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音 各工種における騒音レベル (L_{A5}) の事後調査結果 (54～73dB) は、全ての工種で予測結果 (73～78dB) 及び環境確保条例に基づく勧告基準 (80dB 以下) を下回った。</p> <p>(2) 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音 騒音レベル (L_{Aeq}) の事後調査結果 (63dB) は、予測結果 (65dB) 及び環境基準 (65dB 以下) を下回った。</p> <p>2 振動</p> <p>(1) 建設機械の稼働に伴う建設作業振動 各工種における振動レベル (L_{10}) の事後調査結果 (37～60dB) は、全ての工種で予測結果 (55～70dB) 及び環境確保条例に基づく勧告基準 (70dB 以下) を下回った。</p> <p>(2) 工事用車両の走行に伴う道路交通振動 振動レベル (L_{10}) の事後調査結果 (43dB) は、予測結果 (46dB) 及び環境確保条例に基づく規制基準 (60dB 以下) を下回った。</p> <p>3 地盤沈下(開削工事における地下水低下に伴う地盤沈下の程度) 地下水位の変動は、一部の構築作業等に伴い一時的な水位低下はあったものの、構築の進捗に伴い水位は回復し、安定している。また、地盤変動量は-9～+7 mmの範囲であり、地下水位の低下に伴う横断線毎の大きな変動はないことから、周辺へ影響を及ぼすような地下水位の低下及び地盤沈下は生じていないと考える。</p> <p>4 地形・地質(開削工事に伴う地盤の変形の範囲及び変更の程度) 地盤変動量は-9～+7 mmの範囲であり、地下水位の低下に伴う横断線毎の大きな変動はない。また、開削区間においては、遮水性の高い土留壁の施工が完了した区間から掘削を進めており、土留壁の変形は確認されなかったことから、周辺へ影響を及ぼすような地盤変形は生じていないと考える。</p> <p>5 水文環境(地下構造物の設置による地下水の変化の程度) 地下水位の変動は、一部の構築作業等に伴い一時的な水位低下はあったものの、構築の進捗に伴い水位は回復し、安定していることから、地下構造物が地下水の状況に著しい影響を及ぼしていないと考える。</p>		

事 項	内 容																												
	<p data-bbox="459 241 603 275">6 廃棄物</p> <p data-bbox="459 277 751 311">(1) 建設廃棄物の状況</p> <table border="1" data-bbox="515 315 1410 526"> <thead> <tr> <th data-bbox="515 315 724 376" rowspan="2">区 分</th> <th data-bbox="724 315 916 376">予測結果</th> <th colspan="3" data-bbox="916 315 1410 376">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th data-bbox="724 376 916 436">発生量</th> <th data-bbox="916 376 1058 436">今回</th> <th data-bbox="1058 376 1235 436">累計</th> <th data-bbox="1235 376 1410 436">再資源化率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="515 436 724 526">コンクリート・鉄骨</td> <td data-bbox="724 436 916 526">9,700t</td> <td data-bbox="916 436 1058 526">1,359t</td> <td data-bbox="1058 436 1235 526">8,014t</td> <td data-bbox="1235 436 1410 526">100%</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="459 566 751 600">(2) 建設発生土の状況</p> <table border="1" data-bbox="515 604 1410 822"> <thead> <tr> <th data-bbox="515 604 724 665" rowspan="2">区 分</th> <th data-bbox="724 604 895 665">予測結果</th> <th colspan="3" data-bbox="895 604 1410 665">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th data-bbox="724 665 895 725">発生量</th> <th data-bbox="895 665 1066 725">今回</th> <th data-bbox="1066 665 1236 725">累計</th> <th data-bbox="1236 665 1410 725">再利用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="515 725 724 822">発生土</td> <td data-bbox="724 725 895 822">609,000 m³</td> <td data-bbox="895 725 1066 822">110,000 m³</td> <td data-bbox="1066 725 1236 822">604,000 m³</td> <td data-bbox="1236 725 1410 822">100%</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	予測結果	事後調査結果			発生量	今回	累計	再資源化率	コンクリート・鉄骨	9,700t	1,359t	8,014t	100%	区 分	予測結果	事後調査結果			発生量	今回	累計	再利用率	発生土	609,000 m ³	110,000 m ³	604,000 m ³	100%
区 分	予測結果		事後調査結果																										
	発生量	今回	累計	再資源化率																									
コンクリート・鉄骨	9,700t	1,359t	8,014t	100%																									
区 分	予測結果	事後調査結果																											
	発生量	今回	累計	再利用率																									
発生土	609,000 m ³	110,000 m ³	604,000 m ³	100%																									
苦 情 の 有 無	<p data-bbox="459 1951 1455 2069">昼間・夜間における建設作業騒音 35 件、建設作業振動 12 件の苦情が寄せられた。工事内容の説明や作業時間の変更、防振マットの敷設等の対応をすることで理解を得た。</p>																												

変 更 届

事 項	内 容																																				
事 業 名	豊洲新市場建設事業																																				
番号・答申日・受理日	2-242-2	H29.10.27	H31.2.28																																		
事 業 の 種 類	卸売市場の設置、自動車駐車場の設置																																				
規 模	計 画 地： 江東区豊洲六丁目地内 敷 地 面 積： 約 407,000 m ² 主 要 用 途： 卸売市場、商業施設、駐車場 駐 車 場 台 数： 約 6,300 台 工 事 予 定 期 間： 平成 23 年度～平成 34 年度（2022 年度）以降 供 用 開 始 予 定： 千客万来施設開場予定：平成 34 年度（2022 年度）以降 （新市場開場：平成 30 年 10 月 11 日）																																				
変更内容の概略	1 変更理由 豊洲市場開場に伴い、関連店舗に訪れる来場者等の駐車スペースを確保する必要が生じたため、5街区の千客万来施設用地西側部分に千客万来施設（駐車場棟）を先行整備する。 なお、当該東側部分に建設予定の千客万来施設（千客万来施設2）の施設規模は現時点で未定である。																																				
	2 主な変更内容 （1）建築計画の変更																																				
	5 街 区	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">街 区</th> <th rowspan="2">施 設</th> <th colspan="2">変更後</th> <th colspan="2">変更前</th> </tr> <tr> <th>建築面積</th> <th>最高高さ</th> <th>建築面積</th> <th>最高高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">5 街 区</td> <td>青果卸売棟 ・ 青果仲卸売場</td> <td style="text-align: center;">約 98,500 m²</td> <td style="text-align: center;">約 26m</td> <td style="text-align: center;">約 98,500 m²</td> <td style="text-align: center;">約 26m</td> </tr> <tr> <td>千客万来施設</td> <td style="text-align: center;">約 40,700 m²</td> <td style="text-align: center;">約 31m</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">約 40,700 m²</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">約 31m</td> </tr> <tr> <td>西側部分： 千客万来施設 （駐車場棟）</td> <td style="text-align: center;">約 9,300 m²</td> <td style="text-align: center;">約 20m</td> </tr> <tr> <td>東側部分： 千客万来施設 2</td> <td style="text-align: center;">未定</td> <td style="text-align: center;">未定</td> </tr> <tr> <td>立体駐車場</td> <td style="text-align: center;">約 30,700 m²</td> <td style="text-align: center;">約 21m</td> <td style="text-align: center;">約 30,700 m²</td> <td style="text-align: center;">約 21m</td> </tr> </tbody> </table>				街 区	施 設	変更後		変更前		建築面積	最高高さ	建築面積	最高高さ	5 街 区	青果卸売棟 ・ 青果仲卸売場	約 98,500 m ²	約 26m	約 98,500 m ²	約 26m	千客万来施設	約 40,700 m ²	約 31m	約 40,700 m ²	約 31m	西側部分： 千客万来施設 （駐車場棟）	約 9,300 m ²	約 20m	東側部分： 千客万来施設 2	未定	未定	立体駐車場	約 30,700 m ²	約 21m	約 30,700 m ²	約 21m
	街 区	施 設	変更後		変更前																																
建築面積			最高高さ	建築面積	最高高さ																																
5 街 区	青果卸売棟 ・ 青果仲卸売場	約 98,500 m ²	約 26m	約 98,500 m ²	約 26m																																
	千客万来施設	約 40,700 m ²	約 31m	約 40,700 m ²	約 31m																																
	西側部分： 千客万来施設 （駐車場棟）	約 9,300 m ²	約 20m																																		
	東側部分： 千客万来施設 2	未定	未定																																		
立体駐車場	約 30,700 m ²	約 21m	約 30,700 m ²	約 21m																																	
（2）駐車場出入口 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>変更後</th> <th>変更前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駐車場出入口</td> <td style="text-align: center;">5 街区西側</td> <td style="text-align: center;">5 街区北側</td> </tr> </tbody> </table>			項目	変更後	変更前	駐車場出入口	5 街区西側	5 街区北側																													
項目	変更後	変更前																																			
駐車場出入口	5 街区西側	5 街区北側																																			
環境影響評価項目の再評価（見直し）結果	建築計画の一部が変更となるが、建築面積及び高さは、変更前を下回ること、また、5街区西側に新たな出入口が生じるが、街区間の主要幹線道路に接続するものであり、駐車場の車両走行台数は評価書で想定した台数を上回らないことから予測・評価の見直しは行わない。																																				

変 更 届

事 項	内 容																										
事 業 名	新海面処分場建設事業																										
番号・答申日・受理日	2-124-2	H6.6.9	H31.3.6																								
事業の種類	埋立て																										
規 模	名 称：新海面処分場 位 置：中央防波堤外側埋立処分場南側水域 埋 立 面 積：約 480 ha 埋立処分量：約 12,037 万 m ³ 護 岸 延 長：約 13,876 m 工 事 期 間：護岸工事：平成 8 年度～平成 44（2032）年度以降 廃棄物等の埋立処分：平成 8 年度～平成 44（2032）年以降																										
変更内容の概略	<p>1 変更理由 「廃棄物の埋立処分計画」の改定に伴い、工事期間及び埋立処分量の変更、容量増大策の工事期間及び施工量の変更、廃棄物等の輸送計画の変更を行う。</p> <p>2 変更内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 35%;">変更後</th> <th style="width: 35%;">変更前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工事期間 (護岸工事)</td> <td style="text-align: center;">平成 8 年度から 平成 <u>44 (2032)</u> 年度以降</td> <td style="text-align: center;">平成 8 年度から 平成 39 (2027) 年度以降</td> </tr> <tr> <td>工事期間 (廃棄物等の埋立処分)</td> <td style="text-align: center;">平成 9 年度から 平成 <u>44 (2032)</u> 年度以降</td> <td style="text-align: center;">平成 9 年度から 平成 39 (2027) 年度以降</td> </tr> <tr> <td>埋立 処分量</td> <td style="text-align: center;">約 <u>6,100 万 m³</u></td> <td style="text-align: center;">約 5,400 万 m³</td> </tr> <tr> <td>容量増大策 (深堀工事： Dブロック)</td> <td style="text-align: center;">平成 26 年度から 平成 <u>32 (2020)</u> 年度 施工量 <u>260 万 m³</u></td> <td style="text-align: center;">平成 26 年度から 平成 30 (2018) 年度 施工量 200 万 m³</td> </tr> <tr> <td>容量増大策 (沈下促進工事： Gブロック)</td> <td style="text-align: center;">平成 33 年度から 平成 <u>42 (2030)</u> 年度 施工量 <u>230 万 m³</u></td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>容量増大策 (しゅんせつ土有 効利用工事： Cブロック)</td> <td style="text-align: center;">平成 30 年度から 平成 <u>39 (2027)</u> 年度 施工量 <u>69 万 m³</u></td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>廃棄物等の輸送 計画</td> <td style="text-align: center;">平成 32(2020)年度以降 臨海道路南北線を追加した <u>4 ルート</u></td> <td style="text-align: center;">3 ルート</td> </tr> </tbody> </table>				変更後	変更前	工事期間 (護岸工事)	平成 8 年度から 平成 <u>44 (2032)</u> 年度以降	平成 8 年度から 平成 39 (2027) 年度以降	工事期間 (廃棄物等の埋立処分)	平成 9 年度から 平成 <u>44 (2032)</u> 年度以降	平成 9 年度から 平成 39 (2027) 年度以降	埋立 処分量	約 <u>6,100 万 m³</u>	約 5,400 万 m ³	容量増大策 (深堀工事： Dブロック)	平成 26 年度から 平成 <u>32 (2020)</u> 年度 施工量 <u>260 万 m³</u>	平成 26 年度から 平成 30 (2018) 年度 施工量 200 万 m ³	容量増大策 (沈下促進工事： Gブロック)	平成 33 年度から 平成 <u>42 (2030)</u> 年度 施工量 <u>230 万 m³</u>	—	容量増大策 (しゅんせつ土有 効利用工事： Cブロック)	平成 30 年度から 平成 <u>39 (2027)</u> 年度 施工量 <u>69 万 m³</u>	—	廃棄物等の輸送 計画	平成 32(2020)年度以降 臨海道路南北線を追加した <u>4 ルート</u>	3 ルート
	変更後	変更前																									
工事期間 (護岸工事)	平成 8 年度から 平成 <u>44 (2032)</u> 年度以降	平成 8 年度から 平成 39 (2027) 年度以降																									
工事期間 (廃棄物等の埋立処分)	平成 9 年度から 平成 <u>44 (2032)</u> 年度以降	平成 9 年度から 平成 39 (2027) 年度以降																									
埋立 処分量	約 <u>6,100 万 m³</u>	約 5,400 万 m ³																									
容量増大策 (深堀工事： Dブロック)	平成 26 年度から 平成 <u>32 (2020)</u> 年度 施工量 <u>260 万 m³</u>	平成 26 年度から 平成 30 (2018) 年度 施工量 200 万 m ³																									
容量増大策 (沈下促進工事： Gブロック)	平成 33 年度から 平成 <u>42 (2030)</u> 年度 施工量 <u>230 万 m³</u>	—																									
容量増大策 (しゅんせつ土有 効利用工事： Cブロック)	平成 30 年度から 平成 <u>39 (2027)</u> 年度 施工量 <u>69 万 m³</u>	—																									
廃棄物等の輸送 計画	平成 32(2020)年度以降 臨海道路南北線を追加した <u>4 ルート</u>	3 ルート																									
環境影響評価項目の再評価(見直し)結果	<p>今回の変更において埋立処分量や容量増大策の施工量は変わるが、工事期間も延長され、年次毎の埋立処分量及び工事量は評価書時よりも縮小されることから、予測・評価の見直しは行わない。</p> <p>また、工事用車両の走行ルートは一部変更となるが、変更後の廃棄物の搬入車両交通量は変更前のピーク時を上回らない。新たな輸送ルートとなる臨海道路南北線については「(仮称)臨港道路南北線建設計画」による環境影響評価が実施されており、廃棄物等の搬入車両交通量の割合も 3%未満と小さいことから予測・評価の見直しは行わない。</p>																										

変 更 届

事 項	内 容											
事 業 名	府中都市計画道路 3・2・2 の 2 号東京八王子線及び国立都市計画道路 3・3・2 号東京八王子線（府中市西原町二丁目～国立市谷保間）建設事業											
番号・答申日・受理日	2-261-1	H22. 6. 25	H31. 3. 14									
事 業 の 種 類	道路の新設											
規 模	延 長：約 1.3km 起 点：府中市西原町二丁目 終 点：国立市谷保 車 線 数：本線 4 車線 道 路 幅 員：36m 道 路 構 造：平面部 約 1.2km、橋梁部 約 0.1km 工 事 期 間：平成 27 年度～平成 37 年度（2025 年度）（予定） 供 用 開 始：平成 37 年度（2025 年度）（予定）											
変更内容の概略	<p>1 変更理由 用地買収を進めてきているが、権利者の不安解消等を考慮した用地交渉及び用地取得等が引き続き求められ、事業計画より用地取得に時間を要しているため、工事期間及び供用開始時期を変更する。</p> <p>2 変更内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 35%; text-align: center;">変更後</th> <th style="width: 35%; text-align: center;">変更前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">供用開始</td> <td style="text-align: center;">平成 37 年度 (2025 年度) (予定)</td> <td style="text-align: center;">平成 30 年度 (予定)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">工事期間</td> <td style="text-align: center;">平成 27 年度 ～平成 37 年度(2025 年度) (予定)</td> <td style="text-align: center;">平成 27 年度 ～平成 30 年度 (予定)</td> </tr> </tbody> </table>				変更後	変更前	供用開始	平成 37 年度 (2025 年度) (予定)	平成 30 年度 (予定)	工事期間	平成 27 年度 ～平成 37 年度(2025 年度) (予定)	平成 27 年度 ～平成 30 年度 (予定)
	変更後	変更前										
供用開始	平成 37 年度 (2025 年度) (予定)	平成 30 年度 (予定)										
工事期間	平成 27 年度 ～平成 37 年度(2025 年度) (予定)	平成 27 年度 ～平成 30 年度 (予定)										
環境影響評価項目の再評価（見直し）結果	今回の変更において工事期間及び供用開始年度は変わるが、道路の構造及び工法等についての変更はなく、また工事完了後の環境影響要因（施設の存在、自動車の走行）に変更はないことから、予測・評価の見直しは行わない。											

